

平成三十年度 麻布

一 a 散策 b 晩 c 反射 d 帯

二

1 不安で、イライラする

2 一階の床にチョークで線を引いて四つに分け、自分の個性と居場所にこだわり、相手に対して無関心をよそおって暮らしている。

3 外はがれきで、また悪い大人たちがうろつくだけでなく、獣まで襲い掛かってくる危険な場所。

三 外で騒ぐ悪い大人たちがいなくなるまでじっと我慢して待つこと。

四 自転車は誰にも手が届かないようなものではあるが、乗ることはできなくても近くにあるだけで満足できるあこがれの存在。

五 イ

六 自分のテリトリーにこだわって互いに意思を伝えないのはやめて、言葉以外の手段であっても思いやアイデアを共有し、あこがれの自転車を作るために協力してほしいという思い。

七 チビと二人で必要な道具を集め、銀に写真や雑誌を見せることで自転車の作り方を教えてもらうようながし、赤には今までの謝罪をして自転車づくりに協力してもらおうようお願いした。

八 ウ

九 相手のテリトリーを超えて、自転車を作るという目標のために四人が一丸となって協力していった結果、場所の区切りが必要なくなっただけでなく、互いに心から信頼し合えるようになったということ。

十 見た目はみすばらしい自転車であったとしても、その自転車を作るために立場を超えて協力した四人の思いの結晶ともいえる自転車は、わたしにとって満足できるものであるだけでなく、かけがえないものだったから。

十一 初めは、それぞれが自分の立場にこだわって相手との関わりを避けていたものの、みんな協力して自転車を作ったことで、立場を超えて相手と通じ合える喜びを感じられたことで、満足感や達成感を抱いているということ。

十二 チビがきっかけとなって始まった自転車作りにも関わらず、チビだけがその自転車に自力で乗ることができないため、自分と同じように自転車で走ることで感じられる可能性を、チビにも感じさせてあげたいという思いがあったから。